

令和4年度
(令和4年4月～令和5年3月)

環境経営レポート



令和5年7月1日

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I (公財) 北九州観光コンベンション協会 概要

当協会は、北九州市が中心となって設立された(財)西日本産業貿易見本市協会(昭和51年設立)が(財)北九州コンベンションビューロー(平成2年設立)を平成17年7月に統合し、(財)西日本産業貿易コンベンション協会となりました。

旧西日本産業貿易見本市協会設立以来、西日本総合展示場本館の管理運営をはじめとして、多様な見本市・展示会の開催に取り組んでまいり、統合後は、学会・大会などの誘致活動事業を加え、地域産業の発展や文化の向上、国際交流の促進などに寄与しています。

併せて、北九州市所有の公共施設である北九州国際展示場(西日本総合展示場新館)と北九州国際会議場の管理運営を指定管理者として受託しており、地域の産業振興・政策体现・集客やにぎわいづくり等をはじめとした、MICE にかかる中核を担う組織として積極的に活動しています。

さらに、平成23年6月には福岡県知事により、公益財団法人への移行認定を受けました。

そして平成29年4月に(公社)北九州市観光協会と合併し、現在の(公財)北九州観光コンベンション協会となりました。

当協会は、北九州市のMICE誘致、地域産業や観光の振興、にぎわいづくりに継続的に取り組み、更なる飛躍と公益の追求を目指してまいります。

(1) 法人名及び代表者

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

理事長 津田 純嗣(令和3年9月就任)

(2) 所在地・・・※令和5年の更新審査で拡大予定(下線部)

協会事務所：福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

北九州おみやげ館：北九州市門司区東港町6-7 2

(3) 環境管理責任者及び担当者

責任者 事務局長 丸山 保

担当者 総務部総務課長 小林 真一

T E L 093-511-6848 F A X 093-521-8845

(4) 事業規模

役員数(理事・監事・評議員) 20名 職員数 59名

基本財産 2,021百万円(令和5年3月31日現在)

令和4年度支出予算額 1,146百万円

(5) 事業年度 4月～翌年3月

(6) 認証・登録範囲 対象事業所：協会事務所

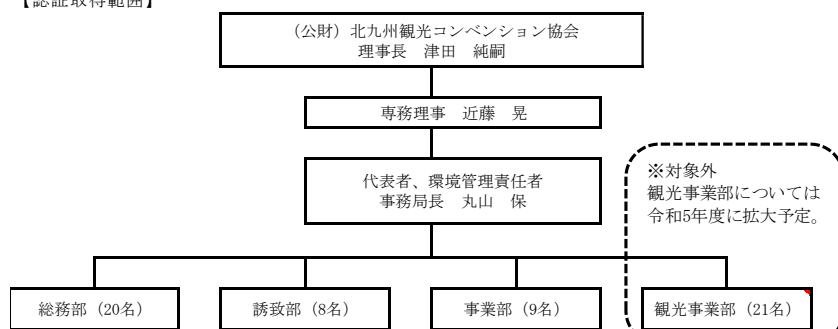
対象外事業所：観光事業部、北九州おみやげ館※

対象活動：MICE 事業部で主に施設管理に係る事業活動

対象外活動：下記組織・活動に示す※

(7) 組織及び活動【EA2 1実施体制(組織)】 令和4年4月1日時点

【認証取得範囲】



【活動(事業)内容】※令和5年の更新審査で拡大予定(下線部)

(1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援

(2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援

(3) 観光客の誘致及び滞在化促進※

(4) 各種展示会、コンベンション及び観光等に関する広報及び宣伝※

(5) 観光に関する調査・企画及び情報の収集・提供※

(6) コンベンション及び観光に関する人材の育成及び啓発※

(7) 特産品の紹介・宣伝・販路開拓※

(8) 第1号、第2号及び観光の事業の用に供する施設の管理・運営※

(9) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Ⅱ 環境経営方針

環境経営方針

公益財団法人北九州観光コンベンション協会は、環境首都を目指す北九州市の外郭団体として、環境への取り組みを高い意識を持って進め、環境負荷の低減など持続可能な社会の発展と調和した環境保全活動の継続的改善に努めます。

1. 全職員の環境保全に対する意識や知見を高め、自主的、積極的に実践するよう取り組みます。
2. 主催事業、コンベンションの開催及び施設の運営・管理等、協会のすべての事業活動において、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減をはじめ、省資源、省エネルギーに努めます。また、環境配慮商品の使用に努めます。
3. 環境保全に関わる事業や展示会、学会等の企画・開催、支援を推進し、社会への環境関連情報の普及や関心の向上、地域の環境保全活動等に貢献します。
4. 環境経営レポートを作成し、環境取組の状況を公表します。
5. 当協会の事業活動に関わる環境関連法規を遵守します。

令和5年 7月 1日

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

理 事 長 津 田 純 嗣

専 務 理 事 近 藤 晃

事 務 局 長 丸 山 保

Ⅲ 環境経営目標及び環境経営計画

1—1. 中期環境経営目標（基準年度：令和元年度）（全体）

環境経営目標	単位	令和元年度 【基準】 (31年4月 ～2年3月)	令和2年度 (2年4月 ～3年3月)	令和3年度 (3年4月 ～4年3月)	令和4年度 (4年4月 ～5年3月)	令和5年度 (5年4月 ～6年3月)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	796,294	796,000	796,000	796,000	796,000
廃棄物排出量の削減	t	69.001	69.0	69.0	69.0	69.0
水使用量の削減	m ³	11,205	11,000	11,000	11,000	11,000
環境関連事業の推進	エコテクト 入場者数 出展社数	28,120 人 191 社	7,955 ビュー 116 社	28,000 人 190 社	28,000 人 190 社	28,000 人 190 社
環境配慮活動の使用推進	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入

※当協会の場合、化学物質対策として環境目標に定めて取り組むべき該当項目はない。

※購入電力の排出係数については、九州電力の平成30年度調整後排出係数 0.347kg-CO₂/kWh、北九州パワーの平成30年度調整後排出係数 0.038kg-CO₂/kWh を適用。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和元年度の実績を基準値として目標設定を算出。

2—1. 令和4年度環境経営計画（全体）

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	
	電気使用量の削減	1	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。
		2	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時（2時間以上）はパソコンの電源を落とすまたは、スタンバイにする。
		3	トイレのエアタオルの使用削減に努める。
		4	近い階への移動は階段を利用する。
2	燃料使用量の削減	1	公用車の利用は必要最低限とし、近場への移動は自転車（シェアサイクル）を利用する。
		2	公用車の購入は低燃費、低排出等の環境性能を必ず考慮する。
		3	エコドライブを心掛け、一時駐車の際のアイドリングをしない。

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	一般廃棄物の削減	1	ペットボトルキャップの回収、空き缶プルトップの回収を行い、廃棄を削減。併せてボランティア活動にも取り組む。
		2	パンフレット等の作成時に、必要部数を精査し無駄のないよう心掛ける。
		3	DM や郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。
2	産業廃棄物の削減	1	会場利用者へ協力を呼びかける。
3	3R の推進	1	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用の徹底や両面コピーを心掛ける。
		2	展示会での備品等のリユース等を心掛ける。
		3	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする(業者に回収委託)。
		4	かん・瓶・ペットボトルを分別回収し、リサイクルする(業者に回収委託)。

3. 水使用量の削減

取組目標		活動項目	
1	水使用量の削減	1	節水を呼びかける啓発シールを貼る。
		2	配管の点検を行う。

4. 環境関連事業の推進

取組目標		活動項目	
1	環境関連事業の推進	1	環境系展示会等の充実を図る。
		2	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。

5. 環境配慮活動の推進

取組目標		活動項目	
1	環境配慮活動の推進	1	カーボンオフセットの推進に努める。
		2	周辺美化等への参加を推進する。

2—2. 令和4年度環境経営目標及び環境経営計画と経過内容（部課別）

〔総務部 営業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	エネルギー利用の削減	営業車の走行距離の把握。 低燃費車への更新・導入検討。
2	環境関連ビジネスへの積極的な営業	再生可能エネルギー等による電力の販売や節電、カーボンオフセット関連セミナー誘致等の営業活動を行う。

〔総務部 サービス課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	新館利用者 天井照明 75%点灯標準化推進 (利用者の天井照明 25%削減)	施設利用者への天井照明 75%実施にかかる依頼文配付など節電の働きかけを行う。特に、会場視察時は最小限の明るさで対応する。
2	環境負荷の少ない電球の購入推進	調光可能な LED、蛍光型電球の更新エリアの調査及び仕入れ価格を調査・確認する。(一部更新・導入済み)

〔誘致部 コンベンション誘致課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	外出時の PC 電源 OFF、 内部資料両面コピーの徹底	新 PC 導入にあたって、自動スリープモード機種を導入。併せて職員の意識づけと周知徹底を図る。
2	公用車の相乗り営業 本庁徒歩営業 公共交通機関活用営業	営業時の声掛け等周知を徹底する。 近場への移動は徒歩や自転車(シェアサイクリング)を利用する。

〔事業部 事業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	展示会開催時の電力使用量の削減	展示会場内の温度や照明の明るさが適正か常に把握し、こまめな調整を行う。
2	ポスター等へのエコ印刷の導入	環境配慮用紙やインキの調査。
3	来場者に対する公共交通機関来場の周知を行う	実施方法の検討を行う。

〔事業部 イベント事業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	小倉駅新幹線口地区振興連絡会において、環境意識を醸成する	会員及び会員以外にも参加を呼びかけ、新幹線口地区において定期的に清掃活動を実施。

IV 環境負荷実績

1—1. 令和4年度の環境負荷目標及び実績

【西日本総合展示場本館】施設稼働率：68.7%

環境負荷項目	単位	目標値	実績値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	136,000	102,863
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值		143,072
排水量の削減	m ³	1,700	2,657
	m ³ ・施設稼働率補正值		3,867

【西日本総合展示場新館】施設稼働率：78.0%

環境負荷項目	単位	目標値	実績値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	339,000	306,262
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值		392,643
排水量の削減	m ³	6,800	5,354
	m ³ ・施設稼働率補正值		6,864

【北九州国際会議場】施設稼働率：94.4%

環境負荷項目	単位	目標値	実績値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	321,000	185,337
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值		196,331
排水量の削減	m ³	2,500	2,389
	m ³ ・施設稼働率補正值		2,530

【3施設合計】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	796,000	594,463
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值		732,046
廃棄物排出量の削減	t	69.0	25.16
	t・施設稼働率補正值		—
排水量の削減	m ³	11,000	10,400
	m ³ ・施設稼働率補正值		13,261

※施設稼働率：日数稼働率（利用日／利用可能日）

※施設稼働率補正值：施設が 100%使用された場合の数値（当該年度の実績値÷稼働率×100）で算出。

※廃棄物排出量（自社）については、会場別の算出が難しいため合算にて集計。

2—1. 過去の環境負荷実績（参考）

【西日本総合展示場本館】

環境負荷項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	136,054	85,701	115,652	102,863
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	154,606	245,556	126,395	143,072
排水量の削減	m ³	1,756	1,975	2,062	2,657
	m ³ ・施設稼働率補正值	1,995	5,659	2,253	3,867

【西日本総合展示場新館】

環境負荷項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	338,904	212,901	249,744	306,262
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	432,827	461,824	380,707	392,643
排水量の削減	m ³	6,916	4,098	5,019	5,354
	m ³ ・施設稼働率補正值	8,832	8,889	7,650	6,864

【北九州国際会議場】

環境負荷項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	321,336	129,861	180,773	185,337
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	353,116	209,791	215,719	196,331
排水量の削減	m ³	2,533	1,670	2,292	2,389
	m ³ ・施設稼働率補正值	2,783	2,698	2,735	2,530

【3施設合計】

環境負荷項目	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	796,294	428,463	546,169	594,463
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	940,549	917,171	722,821	732,046
廃棄物排出量の削減	t	69.001	5.33	26.5	25.16
	t・施設稼働率補正值	-	-	-	-
排水量の削減	m ³	11,205	7,743	9,373	10,400
	m ³ ・施設稼働率補正值	13,610	17,246	12,638	13,261

※ 施設稼働率補正值…施設が100%使用された時の数値(当該年度の実績値÷稼働率×100)
で算出

2-2. 令和4年度の環境関連事業実績

- ・ エコテクノ 2022～地球環境ソリューション展～（自主開催見本市）
：7月6日～7月8日
- ・ エコテクノ 2022～エネルギー先端技術展～（自主開催見本市）
：7月6日～7月8日
- ・ 自衛消防訓練（職員火災訓練）：11月1日、12月6日、2月7日
- ・ 周辺美化活動：毎月 ※天候やコロナの影響により実施できなかった月あり。
- ・ Love あさのクリーンアップ活動（清掃活動）
：4月27日／189名参加
10月12日／193名参加
12月14日／188名参加
- ・ クールビズ（空調28℃設定）：夏期（4月15日～10月31日）
- ・ ウォームビズ（空調19℃設定）：冬（11月1日～3月31日）



エコテクノ 2022



エコテクノ 2022（セミナー）



Love あさのクリーンアップ活動



消防訓練

V 環境経営計画と取組結果の評価および次年度の環境経営目標

1. 二酸化炭素排出量の削減

【目標の結果と評価】

3 施設合計の二酸化炭素排出量目標 796,000kg-CO₂ に対し、実績は **594,463kg-CO₂** となり、削減することができた。これはコロナ禍以降、催事数が年々増加傾向にあるため、昨年度より排出量が増えた結果となった。

今後もコロナの動向は不透明であるが、次年度以降の目標についても、令和元年度の実績を基準とした数値で活動を継続するものとする。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
電気使用量の削減	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。	クールビズ（夏期:4月～10月） ウォームビズ(冬期:11月～3月) 全館で実施している。	5
	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時(2時間以上)はパソコンの電源を落とすかスタンバイにする。	一部(事務所トイレ、通路等)を人感センサー対応の照明にしている。 業務時間外(昼休み等)については消灯実施。また不要箇所の消灯については課で管理担当者を定め節電に取り組んだ。	4
	トイレのエアタオルの使用の削減に努める。	事務所トイレに設置しているエアタオルは感染症対策も兼ねて、必要最小限の使用を呼び掛けている。	4
	近い階への移動は階段を利用する。	事務改善の推進としても心掛けられている。1人1人の意識改善が必要である。	3
燃料使用量の削減	公用車の利用は必要最低限とし、近場への移動は自転車を利用する。	シェアサイクリングサービスに加盟し、自転車の利用を促している。 天候や用件により不可能な場合も多い。	3
	車両の購入は低燃費、低排出等を必ず考慮する。	車両を購入する際に、エコを標準仕様として購入。現在 11 台(うち、市所有 3 台)ある車両のうち、6 台(うち、市所有 0 台)についてはエコカーである。	5
	エコドライブを心掛け、一時駐車の時アイドリングはしない。	走行距離や燃料等の管理を行っている。 駐車の際にはエンジンを停止している。	5

2. 廃棄物排出量の削減

【目標の結果と評価】

3 施設合計の廃棄物排出量目標 69 t に対し、実績は 25.16 t となり、大幅に削減という結果となった。これはコロナの影響に伴う会場での催事の減少も考えられるが、昨年度に比べ催事は増加傾向にあるため、主催者の環境意識の高さとごみ削減のための努力によることが推察される。今後もコロナの動向は不透明であるが、次年度以降の目標についても、令和元年度の実績を基準とした数値で活動を継続するものとする。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
廃棄物の削減	ペットボトルキャップの回収、空き缶プルトップの回収を行い、廃棄の削減と共にボランティア活動に協力する。	ごみの分別を徹底し、ペットボトルキャップ、空き缶プルトップ、使用済みテブラの回収を行い個々の再利用意識の向上に努めた。(ペットボトルキャップはボランティア団体へ寄贈)	5
	パンフレット等の作成時に、必要部数を精査し無駄の無いよう心掛ける。	実績にほぼ等しい部数を印刷するようになったため、誤差・余りはほとんど生じなくなった。	5
	DMや郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。	毎年、顧客の整理を行うようにしており、最新の顧客情報に更新することにより、宛名不明等のDMの戻り率は削減された。	4
3Rの推進	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用の徹底や、両面コピーを心掛ける。	1人1人意識して取り組んでいる。	4
	展示会での備品等のリユースを心掛ける。	パネルのリユースや、カーペット利用の削減等を心掛けている。	5
	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする(業者に回収委託)。	事務所内に古紙回収ボックスを設けており、意識して取り組んでいる。	5
	かん・瓶・ペットボトルについて分別を行い、リサイクルする(業者に回収委託)。	分別用にごみ箱を設置しており、意識して取り組んでいる。	5

3. 水使用量の削減

【目標の結果と評価】

3 施設設計の排水量目標 11,000 m³に対し、実績は 10,400 m³となり、やや削減という結果となった。これはコロナ禍以前ほどの催事数に達していないため、目標を達成することができたことに対して、昨年度と比べた場合の催事開催数は増加傾向であった。その理由として、利用者に対して節水を呼びかけ、職員一人一人も節水を心がけたため、水使用量の削減につなげることができたと考えられる。

今後もコロナの影響がなくなることは考え難く、次年度以降の目標については、令和元年度の実績を基準とした数値で活動を継続するものとする。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
水使用量の削減	節水を呼びかける啓発シールを貼る。	事務所の給湯室、会議場トイレ等で実施済。	4
	配管の点検を行う。	定期点検は行っていないが、異常を察知した場合は即時に対応をしている。	4

4. 環境関連事業の推進

【目標の結果と評価】

環境首都を目指す北九州市の外郭団体として、より一層高い意識を持って環境事業を推進する。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
環境関連事業の推進	環境系展示会等の充実を図る。	エコテクノ 2022～地球環境ソリューション展～の実施、セミナーの開催。	5
	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。	クールビズ、ウォームビズ期間のお知らせ等のポスターを掲示した。	5

5. 環境配慮活動の推進

【目標の結果と評価】

カーボンオフセットの推進に努めた。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
環境配慮活動の推進	脱炭素化の推進に努める。	脱炭素化：自主事業である展示会（エコテクノ 2022）にて実施した。	4
	周辺美化等への参加を推進する。	周辺美化：毎月 「Love あさのクリーンアップ活動」（清掃活動）：4・10・12月（清掃活動 他）	5

※ 判定基準

- 5：既に取り組んでおり、効果があった。
- 4：既に取り組んでいるが、まだ改善の余地がある。
- 3：ある程度取り組んでいるが、更に取り組む余地がある。
- 2：取り組みを試みたが、活動として難しいため不可能である。
- 1：取り組んでいない。
- －：評価に適さない。



使用済ペプラの回収箱設置



事務所内給湯室（分別・回収）

6. その他

・ エネルギー先端技術展とのオンライン同時開催

当協会主催の環境系展示会である「エコテクノ」について、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が継続したものの、感染症防止対策を施すとともに、オンラインの開催手法も取り入れながら、見本市・展示会事業を実施した。「エコテクノ 2022」として「地球環境ソリューション展」及び「エネルギー先端技術展」を同時開催することにより、新たな環境・エネルギー産業を育成するとともに関連技術の普及拡大に努めた。

・ 省エネの推進

業務時間外（昼休み等）に、事務所内照明を消灯している。

本館（大展示場）天井照明のLED化に続き、展示場新館の照明LED化工事を行いCO2の削減に努めた。

・ 消防訓練の実施

施設全体で、小倉北消防署監督のもと自衛消防訓練を実施した。

・ 九州グリーン購入ネットワーク（九州 GPN）の参加及び支援

九州グリーン購入ネットワークに会員登録。同事業への参加及びグリーン購入の推進に努めている。

・ 他団体との連携、協働による地域清掃活動の実施及び参加

【小倉駅新幹線口地区振興連絡会 事務局として実施】

「LOVE あさのクリーンアップ活動」：4月・10月・12月

【参加】

「周辺美化」：毎月



LOVE あさのクリーンアップ活動の様子

Ⅵ 次年度（令和５年度）の環境経営計画（取組）

１．二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	電気使用量の削減	1	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。
		2	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時（2時間以上）はパソコンの電源を落とすかスタンバイにする。
		3	トイレのエアタオルの使用削減に努める。
		4	近い階への移動は階段を利用する。
2	燃料使用量の削減	1	公用車の利用は必要最低限とし、近場への移動は自転車を利用する。
		2	公用車の購入は低燃費、低排出等の環境性能を必ず考慮する。
		3	エコドライブを心掛け、一時駐車の際、アイドリングはしない。

２．廃棄物排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	廃棄物の削減	1	ペットボトルキャップの回収、空き缶プルトップの回収を行い、廃棄の削減と併せてボランティア活動にも協力する。
		2	パンフレット等の作成時に、必要部数を精査し無駄の無いよう心掛ける。
		3	DM や郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。
2	3R の推進	1	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用の徹底や、両面コピーを心掛ける。
		2	展示会での備品等のリユースを心掛ける。
		3	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする（業者に回収委託）。
		4	かん・瓶・ペットボトルの分別を行い、リサイクルする（業者に回収委託）。
		5	クリアファイルの代替として紙ファイルを導入する。

３．水使用量の削減

取組目標		活動項目	
1	水使用量の削減	1	節水を呼びかける啓発シールを貼る。
		2	配管の点検を行う。

４．環境関連事業の推進

取組目標		活動項目	
1	環境関連事業の推進	1	環境系展示会等の継続・充実を図る。
		2	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。

５．環境配慮活動の推進

取組目標		活動項目	
1	環境配慮活動の推進	1	カーボンオフセットの推進に努める。
		2	周辺美化等への参加を推進する。

VII 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当協会が遵守しなければならない主な環境関連法規は、北九州市条例、廃棄物処理法、消防法、フロン排出抑制法であり、それらの遵守状況を確認した結果、違反はなかった。また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もなかった。

VIII 代表者による全体評価と見直し結果（総括）

令和4年度においても新型コロナウイルス感染拡大防止の影響は残り、令和元年度並みの稼働率には至らなかったが、催事数は令和2年度以降年々増加傾向にあり、電気使用量、燃料使用量、水使用量、廃棄物量は昨年度に比べ増加したが、実績値ではいずれも目標値を達成した結果となった。

また、コロナ禍の影響が残る中においても、清掃活動等の環境活動自体は維持し、職員の積極的な参加を呼びかけた。今後も継続して、施設の稼働率を上げ経営基盤を強化しつつ、二酸化炭素排出量の更なる抑制等を目指し環境活動を実施していく予定である。併せて、エコアクション21を通して、環境経営活動について考え推進していきたい。

なお、環境負荷目標はコロナ禍による利用者の減少により達成できた部分もあるが、引き続き、北九州市の事業等と連携し、環境活動の推進に努めたい。

特に、北九州市の環境政策方針の一つでもある「超低炭素社会・脱炭素社会の実現」に向けては、温室効果ガスの削減を図るため、省エネの推進等を積極的に進めており、各施設のLED化を進めているところである。

また、北九州市が掲げる「将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上」においては、北九州市へのMICE誘致事業や各施設の稼働率の向上を通して経済の活性化を目指しつつ、環境に重きを置いた自主事業の展開等、環境の配慮にも努め、経済と環境の両立を図っている。そして、近隣地域の清掃活動への参加も積極的に行っている。

今後も引き続き、平成30年8月に「SDGs 未来都市」に選定された北九州市の外郭団体として、公益法人の社会的役割を果たすべく、会場利用者、展示会来場者等へ環境経営の方針をアピールし理解を深めていただけるような工夫が必要である。そして、SDGsの観点を強化しながら、総合的に環境活動を展開することにより、効果的な取り組みを進めていきたい。